

小諸市の教育のあり方を考えるシンポジウム(2026.3.20)

小諸市が進める「対話と協働の学び」

～現状と課題から考える～



「対話と協働の学び(小学校)」

小諸市教育委員会

小諸市の教育のあり方を考えるシンポジウム(2026.3.20)

小諸市の目指す学校教育とは ～教育ビジョンの具現におけた取組～



【課題①】 「学力向上」 ⇒ 学力のばらつき

☆一人一人の学びの保障

【課題②】 「不登校の増加」

☆安心安全な学校づくり



今、教室で起こっていること ※例にあげると

「学びのシャッターが下りる」とは？

- 「この時間にいったい何をやるのか」が理解できず、授業の途中から「学びのシャッターが下りてしまう」という状態に陥る子ども。
- 背景に考えられるのは、言語の問題が大きいのではないか。
⇒ 原因の一つとして、言語能力の育ちが不十分な子どもが一定数いる。
- 学習とは伝統的に「一人でできるようになることがよい」とされてきたが、それではこの問題は解決されない。



「小諸市小中一貫教育ビジョン」

小諸市校長会案をもとに、教育委員会にて議論・検討して策定したもの。
(2024.9.19策定)

9年間を貫く小中一貫教育を推進する3つの視点

- ①対話と協働による学びの充実
- ②自治的・創造的な活動の充実
- ③安心・安全で居心地のよい学校づくり

小諸市小中一貫教育ビジョン

小諸市学校教育目標

心豊かで、自立(律)する子どもの育成

目指す姿 目指す子ども像・目指す学校像・目指す教師像

子ども

- 自ら願いや課題をもち、その実現や解決に向けて主体的に動き出せる子ども(自立)
- 自分や仲間の「よさ」や「持ち味」を発見し、互いに認め合える子ども(共生)
- 様々な他者との出会いとかかわりの中で、「私」を発見していく子ども(自律)

学校

- 共通の理念や目標のもと「チーム学校」として、個々の教職員が協働的に力を発揮する学校
- 子どもと教職員とで共に創り上げていく学校
- 保護者・地域から信頼される学校

教師

- 子どもを主体とし、常に一人一人の子どもに寄り添い、向き合い、共に歩める教師
- 互いに磨き合い、高め合い、学び続ける教師
- 多様性を包み込み、その子の「よさ」に目を向け、生かす教師

小中一貫教育推進の視点 <9年間を貫く小諸市の小中一貫教育>

- 1 対話と協働による学びの充実 ~一人も取りにしない学びの実現~**
 - 子ども同士が小グループ等で学び合う授業への転換(一斉授業からの転換)
 - わからないことはグループの中で気軽に聞けるという安心感をベースにした学び
 - 聞き合う必要がある課題の設定(素朴な問いが徐々に課題化してくる道程を踏まえて)
- 2 自治的・創造的な活動の充実 ~子どもを主体にしながら子どもと教職員が共に創り続ける学校~**
 - 全教育活動における自治的・創造的な場の発見・発掘・導入
 - 上級生の姿から下級生に伝承されていく自治的・創造的な風土の醸成
- 3 すべての子どもを包み込む居心地のよい学校づくり ~明日も学校に来たいと思える学校~**
 - 校内支援チームを核に、外部機関と連携して初期対応と継続的支援に当たる体制づくり
 - 異学年交流の充実等による、学年や学校の垣根を超えた子ども同士のかかわりの充実
 - 発達段階に応じた柔軟な体制や指導の工夫(学級編制基準や教職員配置の弾力的運用)

「小諸市教育大綱」「小諸市学校再編計画」を受けた、小諸市学校教育目標「心豊かで、自立(自律)する子どもの育成」

「心豊かで、自立(律)した子どもの育成」に向けた、目指す「子どもの姿(像)」「学校の姿(像)」「教師の姿(像)」

「小諸市小中一貫教育ビジョン」の内容

小諸市学校教育目標

心豊かで、自立(律)する子どもの育成

「**自律・共生・自立**」を目指す姿のキーワードとし、仲間の中で自分らしさを発見するプロセスを大切にしてい

「**みんなの中で『私になる』**」
「**みんなの中で『私を発見する』**」

目指す姿 目指す子ども像・目指す学校像・目指す教師像

子ども

- 自ら願いや課題をもち、その実現や解決に向けて主体的に動き出せる子ども（自立）
- 自分や仲間の「よさ」や「持ち味」を発見し、互いに認め合える子ども(共生)
- 様々な他者との出逢いとかかわりの中で、「私」を発見していく子ども（自律）

学校

- 共通の理念や目標のもと「チーム学校」として、個々の職員が協働的に力を発揮する学校
- 子どもと教職員とで共に創り上げていく学校
- 保護者・地域から信頼される学校

教師

- 子どもを主体とし、常に一人一人の子どもに寄り添い、向き合い、共に歩める教師
- 互いに磨き合い、高め合い、学び続ける教師
- 多様性を包み込み、その子の「よさ」に目を向け、生かす教師

「目指す子ども像」

○自ら願いや課題をもち、
その実現や解決に向けて
主体的に動き出せる子ども

自立

○自分や仲間の「よさ」や
「持ち味」を発見し、互い
に認め合える子ども

共生

自律

○様々な他者との出会いと
かかわりの中で、「私」
を発見していく子ども



小中一貫教育推進の視点 <9年間を貫く小諸市の小中一貫教育>

1

対話と協働による学びの充実 ~一人も独りにしない学びの実現~

- 子ども同士が小グループ等で学び合う授業への転換（一斉授業からの転換）
- わからないことはグループの中で気軽に聞けるという安心感をベースにした学び
- 聞き合う必要性がある課題の設定（素朴な問いが徐々に課題化してくる道程を踏まえて）

2

自治的・創造的な活動の充実 ~子どもを主体にしながら子どもと教職員が共に創り続ける学校~

- 全教育活動における自治的・創造的な場の発見・発掘・導入
- 上級生の姿から下級生に伝承されていく自治的・創造的な風土の醸成

3

すべての子どもを包み込む居心地のよい学校づくり ~明日も学校に来たいと思える学校~

- 校内支援チームを核に、外部機関と連携して初期対応と継続的支援に当たる体制づくり
- 異学年交流の充実等による、学年や学校の垣根を超えた子ども同士のかかわりの充実
- 発達段階に応じた柔軟な体制や指導の工夫（学級編制基準や教職員配置の弾力的運用）

小諸市が授業づくりで大切に考えていること

(1) 「対話と協働の学び」の現状



①各校の現状や取組の工夫（職員研修）

○一人一公開 ～特別ではなく、日常を～

- ・どの職員も、年間一回は授業公開を行う。
- ・授業を参観した後は、感想を伝え合い授業改善を図る。

○テーマ別「チャレンジ会」※坂の上小学校

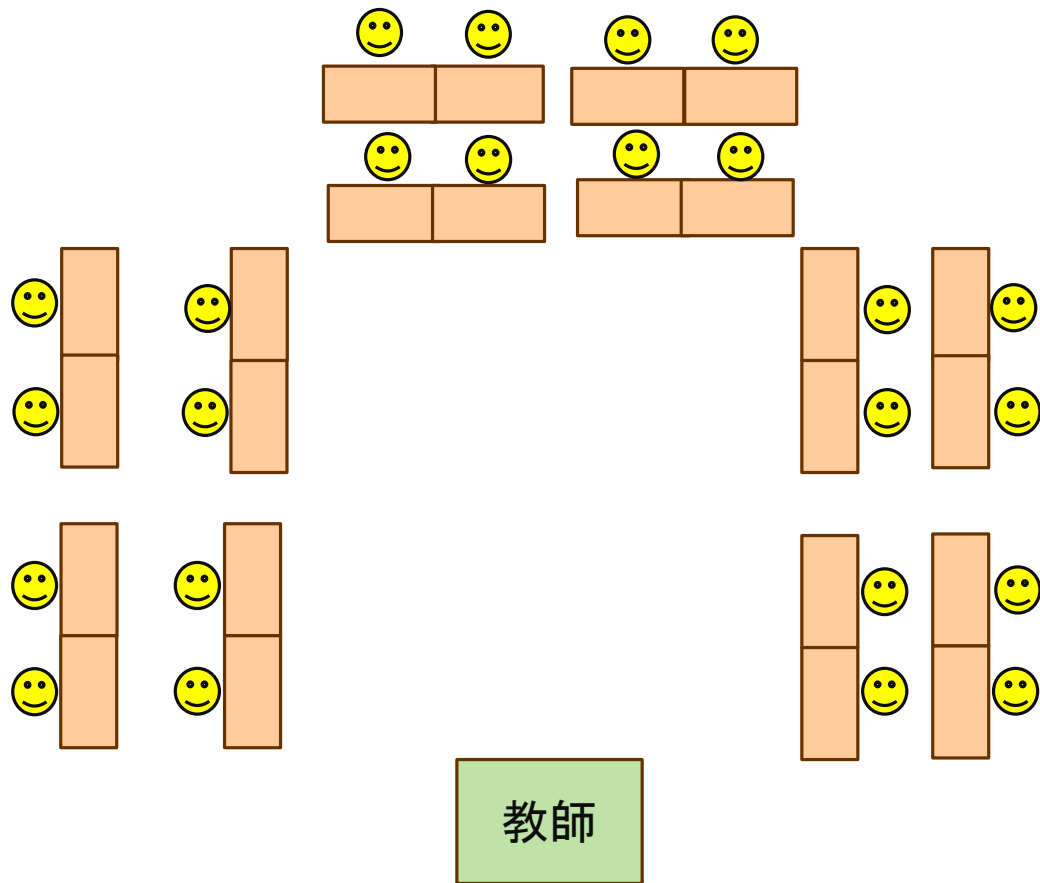
- ・個の研究課題ごとにチャレンジ会を結成⇒アウトプットデー

○中学区単位での授業づくり研究会 ※小諸東／芦原中学校区

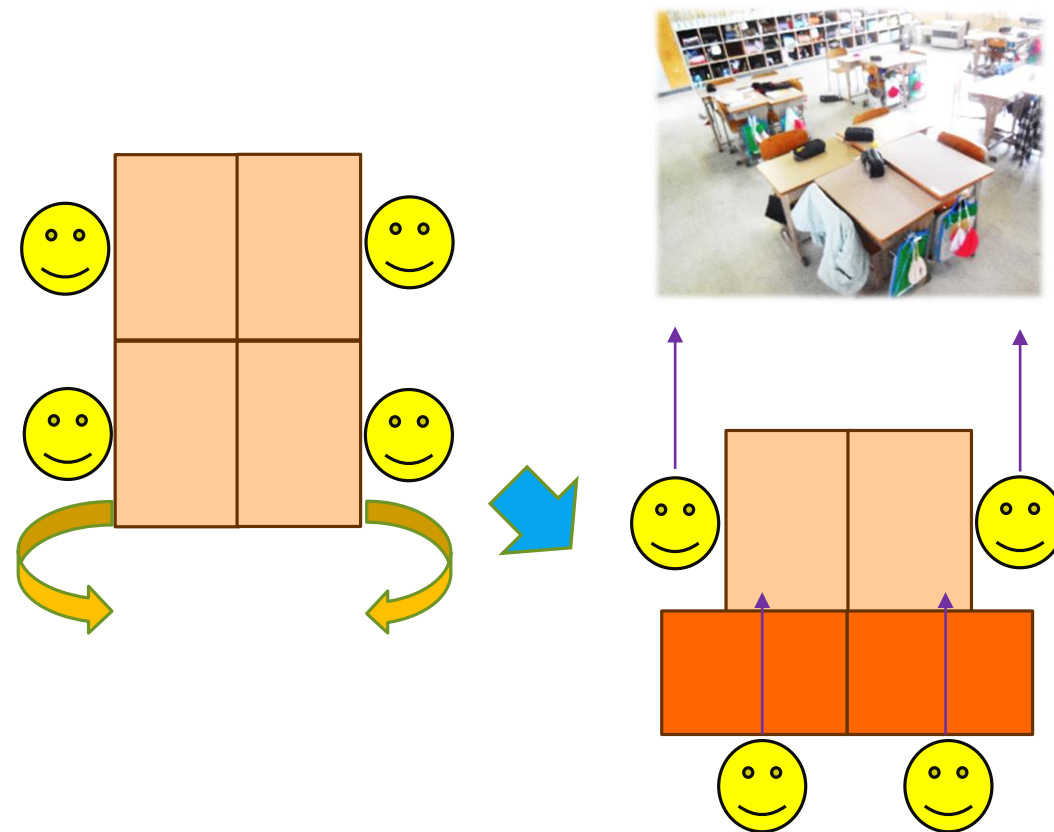
- ・「ジャンプの課題」についての研究、座席の工夫 他

②各校の現状や取組の工夫（座席の工夫）

【ペア学習が生まれるコの字型座席（低学年）】



【机の向きを工夫した座席の配置（高学年）】





小学校1年生 国語「とけいのよみかた」

③ 「対話と協働の学び」に取り組む子どもたちの声

○小中の違いや各校の文化を大切にしながら、**授業デザイン**の検討

友だちと勉強するとわかりやすかった！

友だちにいつでも質問できるから、安心できる

対話と協働の学び



友だちに話したら、思いが伝わった！

友だちと一緒に考えるから楽しい！

わからなかったところがわかってうれしい

○子どもたちの声から「**一人も独りにしない学び**」の取組を検証していく

自分では思いつかない考えに気付いた

学校質問紙の回答より

【質問(33)】

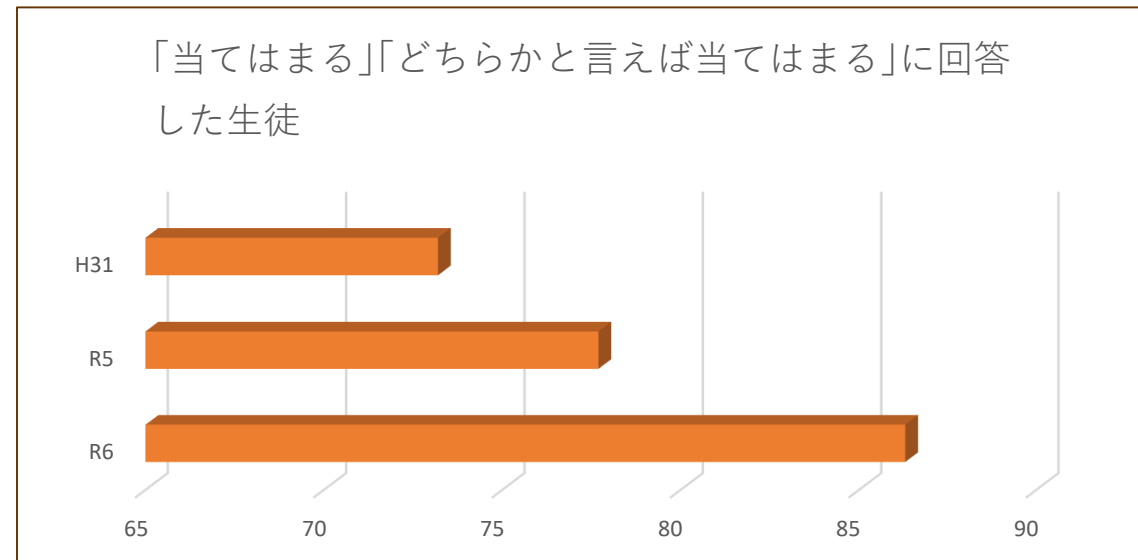
「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、
新たな考え方に気付いたりすることができていますか？」(市内A中学校)

H31… 73.2%

R5 … 77.7%

R6 … 86.3%

★全市 R7 … 88.7%



④ 「対話と協働の学び」のよさを感じる先生方の声

【子どもの姿から】

- 一つの正解を求めずに多様な発想を認め合うことが、お互いの**安心感**にもつながっている。
- 話し合うことで、**一人一人の学びが深く**なっていると感じる。

【授業の質について】

- 学びの**主導権**が教師から子どもたちへと移ってきている。

【教師として】

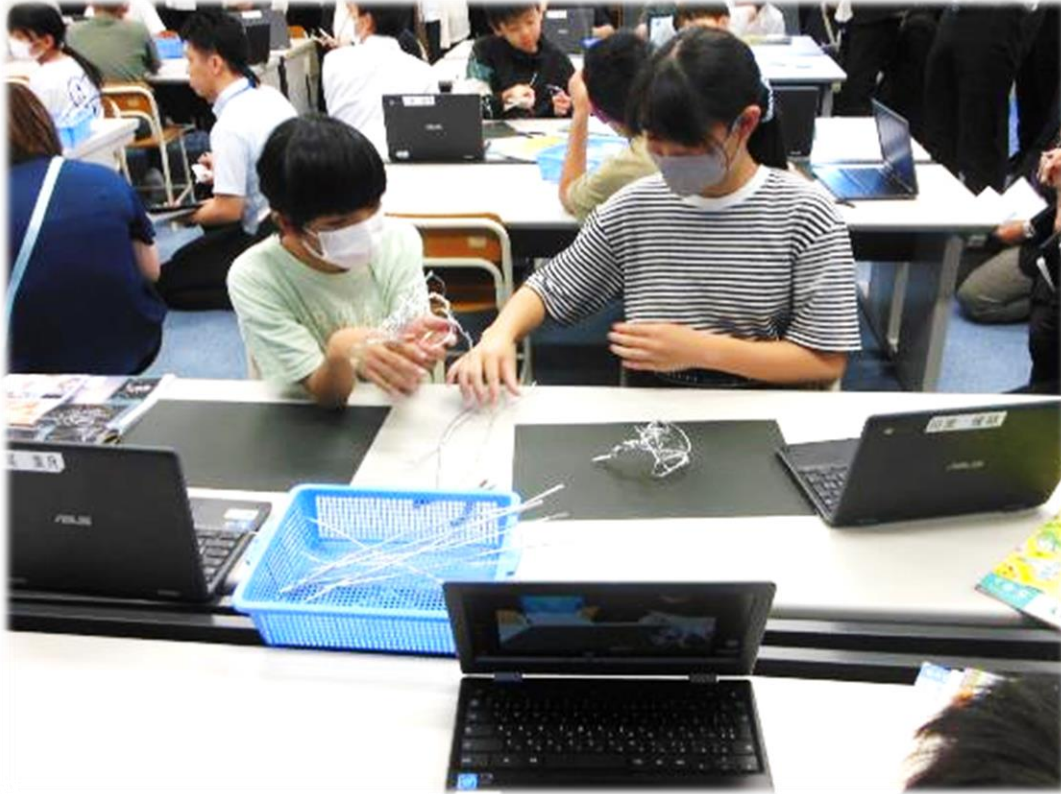
- 学び合いの姿の中から、新たな子どもたちの**よさ**が見えてきた。他

小諸市が授業づくりで大切に考えていること

(2)子ども同士が学び合う授業



ペア・グループ活動のねらい＝学びの主人公となる



困った時にすぐに友だちに相談できる。「できない・わからないこと」が仲間によって「できる・分かる」ようになる。

小中一貫教育推進の視点

① 「対話と協働の学び」の推進

○ペアやグループで学んでいるので、わからなくなったらすぐにグループの仲間に聞くことができる。

→ 「一人も独りにしない学び」

○グループに学びが委ねられる場面が多く、これまでの受け身の構えから、自分たちで考え、主体的に学びに取り組む態度の育成が期待でき、学習効果も高まる。

○子ども同士の対話が頻繁に行われ、一斉授業より言語によるアウトプットの場面が多くなり、言語能力の伸長が期待できる。



小中一貫教育推進の視点

① 「対話と協働の学び」の推進

○ 9年間を貫く対話と協働の学び＝「縦軸の学び」

- ・ 9年間通して「対話と協働」による学びを積み重ねていくことで、「学び手」である子どもたちがこの学び方にこなれていく。
- ・ 1学年から積み重ねることで、学習効果が高まっていく。

○ 教科横断的な対話と協働の学び＝「横軸の学び」

- ・ すべての教科領域にわたって、対話と協働の学びを進めることで、子どもたちがこの学び方を自分自身のものとしていく。
- ・ 教科領域を超え、全職員が共通の土俵で学びのあり方を議論できる。

小諸市が授業づくりで大切に考えていること

(2)子ども同士が学び合う授業

～県外の学校の取組より～





3年生「算数」グループ学習

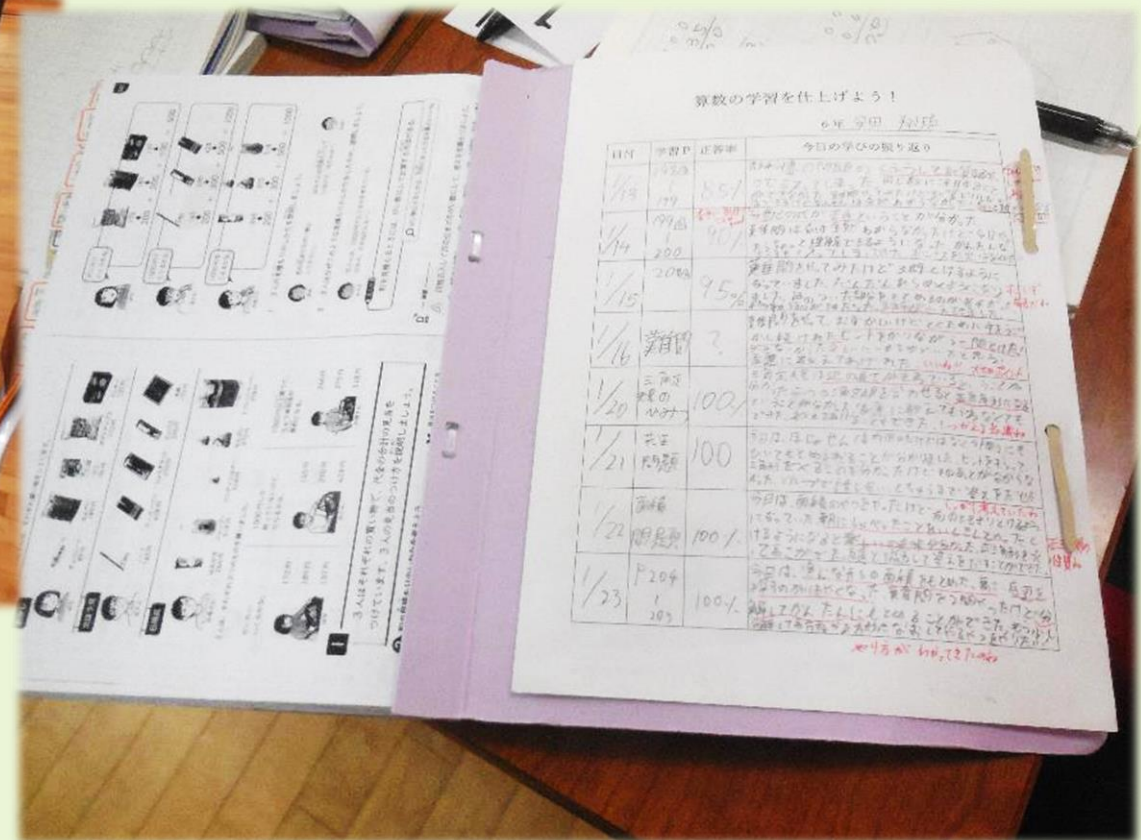


8年生「数学」4人グループ

埼玉県 A小中学校



6年生「算数」4人グループ(TT)



取り組んだ課題を綴じ、中学校へ

福島県 B 義務教育学校

小諸市が授業づくりで大切に考えていること

(3) 今後取り組んでいきたいこと



① 「対話と協働の学び」の課題を感じる先生方の声

【子どもの姿から】

- ▲「対話」ではなく「会話」になってしまうと、学びの面で心配になる。
- ▲算数の授業などでは、教える側と教えられる側が固定されてしまう。

【授業の質について】

- ▲課題を明確にしないと、ねらいが不明瞭な授業になってしまう。
- ▲基礎基本の力、学習の定着につながっているのか心配になる。

【教師として】

- ▲「学びの転換」について、保護者や地域に理解してもらうことが必要。

②改善点及び今後取り組んでいきたいこと

○小諸東中学校区を含めた、小諸市全体としての取組

- ・ 中学校区ごとの合同研修会の開催（R7年度～）
- ・ **職員研修の充実**、自由に授業を見合える校内体制の構築

○学級の実態に合わせた取組の違い

- ・ 児童生徒数や発達段階、学級の状態による段階的な取組

○学校再編(小中の統合)を見据えた授業づくりのPDCA

- ・ 9年間を貫く継続的な取組、ジャンプの課題の研究、視察
- ・ 保護者や地域への「学校づくり」や「授業実践」の発信

③授業改善に向けた各校の取組（R7年度の講師招聘）

	学校名	講師名	所属	指導内容	指導回数
①	東小学校	村瀬 公胤 先生	麻布教育ラボ	対話・協働を軸とした学び合い	年3回
②	坂の上小学校	佐藤 学 先生	東京大学名誉教授	対話・協働を軸とした学び	年1回
③	野岸小学校	村瀬 公胤 先生	麻布教育ラボ	対話・協働を軸とした学び合い	年2回
④	水明小学校	県教委指導主事	東信教育事務所	対話が生まれる学習形態の工夫	年3回
⑤	千曲小学校	楠見 友輔 先生	信州大学	対話・協働を軸とした学び	年3回
⑥	美南ガ丘小学校	岩川 直樹 先生	埼玉大学	対話・探究的な学び（総合学習）	年2回
⑦	小諸東中学校	県教委指導主事	東信教育事務所	個別最適な学び・協働的な学び	年4回
⑧	芦原中学校	佐藤 学 先生	東京大学名誉教授	対話・協働を軸とした学び	年1回

②改善点及び今後取り組んでいきたいこと

○小諸東中学校区を含めた、小諸市全体としての取組

- ・ 中学校区ごとの合同研修会の開催（R7年度～）
- ・ 職員研修の充実、自由に授業を見合える校内体制の構築

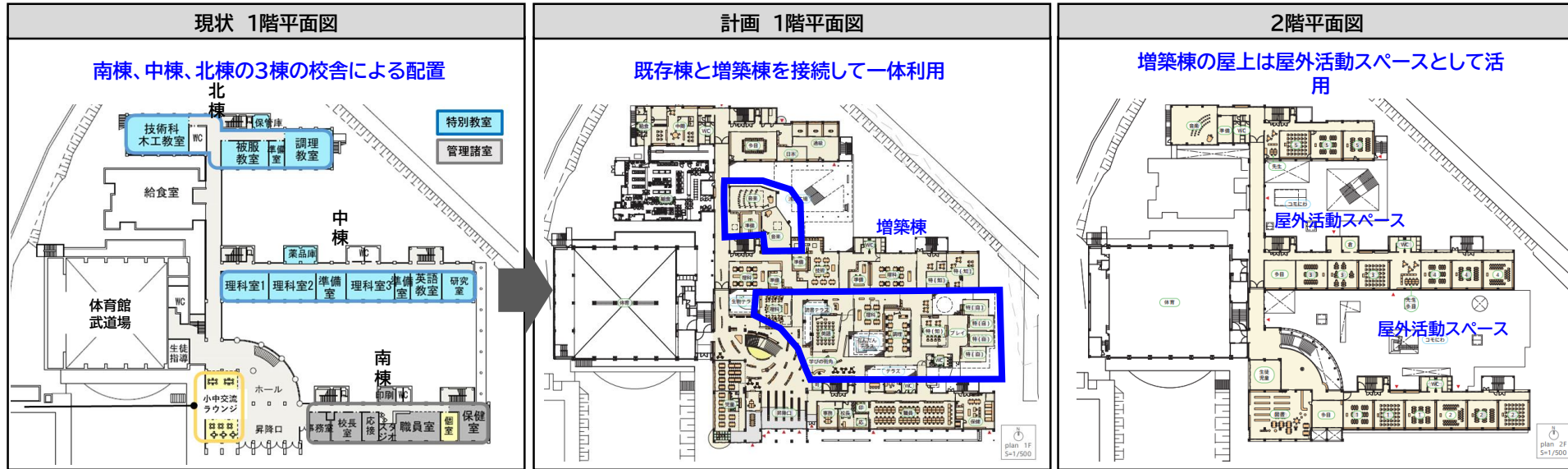
○学級の実態に合わせた取組の違い

- ・ 児童生徒数や発達段階、学級の状態による段階的な取組

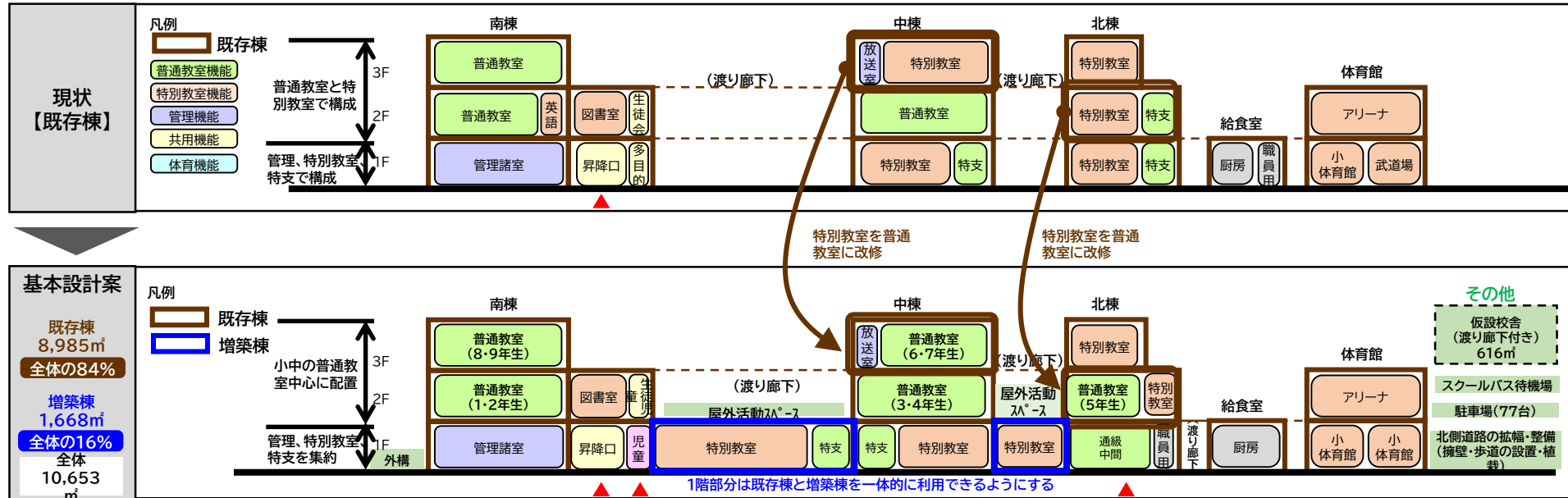
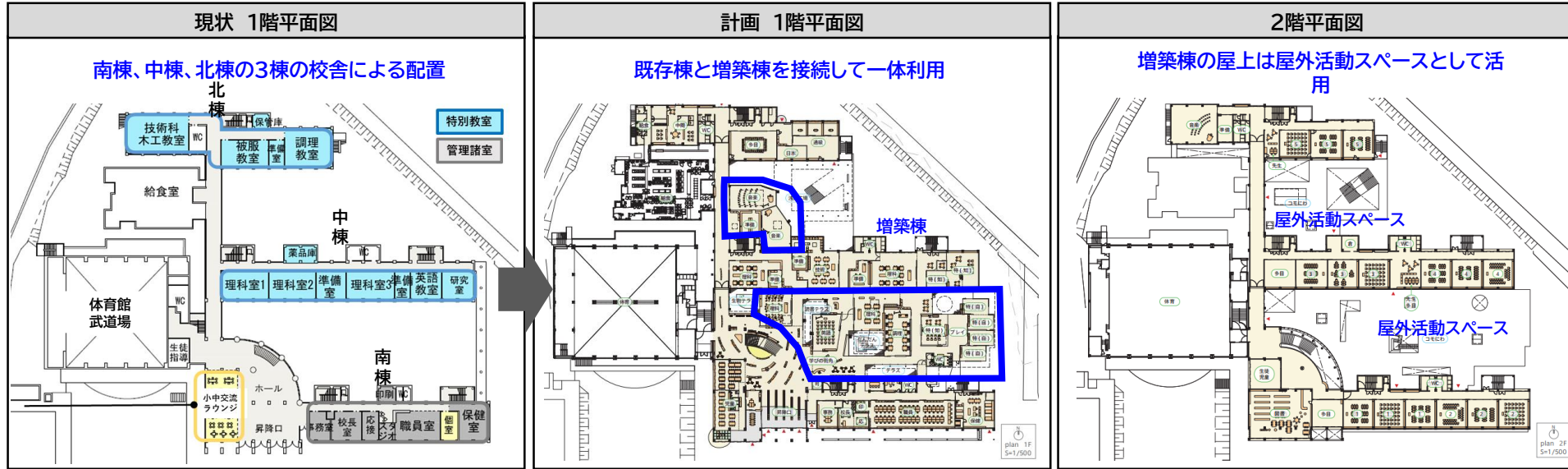
○学校再編(小中の統合)を見据えた授業づくりのPDCA

- ・ 9年間を貫く継続的な取組、ジャンプの課題の研究、視察
- ・ 保護者や地域への「学校づくり」や「授業実践」の発信

1. 基本設計のプラン概要



1. 基本設計のプラン概要



9年間貫く「対話と協働の学び」 = 授業デザイン

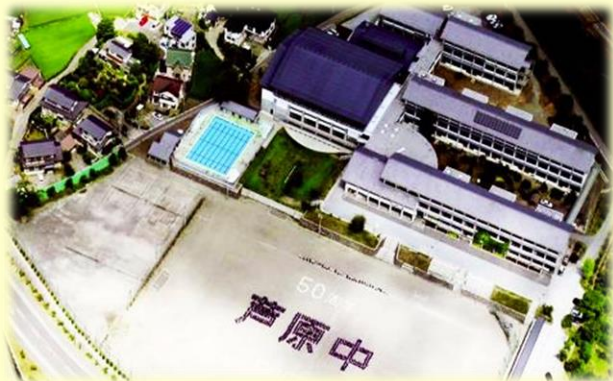
これまで
教師主導の
一斉授業



対話と協働
の学び



これから
子ども同士が学
び合う



芦原中学校(2025年)

3年間の移行期間
の位置付け(重要)

成果と課題を東中学校区の再編へ



芦原新校(2028年)

小諸市の教育のあり方を考えるシンポジウム(2026.3.20)

小諸市が進める「対話と協働の学び」

～現状と課題から考える～



「対話と協働の学び(中学校)」

ご静聴ありがとうございました。